

かさおか

発行所

天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)
電話 66-1311
FAX 66-1314



錦洋分教会

明治30年7月1日 渡布教所設立
大正3年10月31日 錦洋宣教所設立
大正14年4月7日 鎮座祭
大正14年4月8日 移転建築奉告祭

教祖百四十年祭 笠岡大教会活動方針

つながろう、おやさまのお心に。
つなげよう、信仰の喜びを。

活動
目標

ひながたを学び、そのお心を実践しよう。



立教186年
9月号

布教推進講習会 開催

8・21 祭典後

布教部

布教部(田中隆之部長)は8月21日、松村先生(本部布教部長・東京分教会長)を講師に迎え、大教会8月月次祭後に布教推進講習会を開催。役員・部内教会長・よふぼく・信者ら多数が受講した。講話要旨は次の通り。



ユーモアを交えて話される松村先生

年祭活動が始まって半年経ちました。いま一度、どういうふうな気持ちでその目標を実践すればよいのか、考えるきっかけになればと思う。また、年祭活動はおやさまのひながたを通していただくとテーマに掲げている。おやさまの教えや行い、心の使いかた、それをそのままぞっていけば、

きつと陽気ぐらしができるはず。もう1つ、たすけ一条のひながたという視点が大切だと思う。「世界には枕もとに食べ物や山ほど積んでも食べるに食べられず、水も喉を越さんと言っていて苦しんでいる人もある。そのことを思えば、わしらは結構や。水を飲めば水の味がする。親神様が結構に与え下されてある」と。教祖伝を読むと子供たちを励まされたところがあるが、これが大事なひながただと思う。目の前にお米はないが、親神様がご守護くださり、今元気で過ごさせて頂いている。そこを喜ぼうという心の使いかた。このご逸話の一番の中核部分は、最後の2行の「親神様が結構にお与えくださる」と。

まず年祭活動の目標のお話。おやさまの逸話篇に、「宝の山」という話がある。大きな川に橋杭のない橋がある。途中でまで行くと橋が揺れる。そこを一生懸命渡っていくと、宝の山がある。途中で険しいところがあると、そこから帰るから宝がいただけじゃない。年祭活動で目標を定めるといことは、この3年間のうちにあそこまで登ってみようという目標を定めることではないか。山登りの道程はみんな違うと思う。自

分がどこに向かって歩いて行くか、神様が、ここまできたらお宝あげるよと言ってくださっているところを目指して歩いて行く。もしまだ目標が定まっていけない方がおられたら、今からでも全然遅くない。今日をきっかけにあらためて目標を考えて決めて頂いたら良い、そしてそれを途中で止めないことが大事。

教祖年祭への三年千日通り方を教えていただいているおさしづがある。「三年辛抱すれば落ちようと思っても落ちられん。三年の道通れば不自由しようにも難儀しようにもしられやせん」僅か五十年。五十年の間の道を、まあ五十年三十年も通れと言えはいこまい。二十年も十年も通れと言おうやない。まあ十年の中の三つや。三日の道を通ればよいのや。僅か千日の道を通れと言おうのや。千日の道が難しいのや。ひながたの道より道が無いで「人間だから五十年通れといってもできないだろうと神様おっしゃる。10年の中の3つ、3年頑張ることで徳を頂ける。これからの私たち、自分の家族、また自分の教会に徳を頂ける。またおさしづに、「どうでも一つ仕切り根性、仕切り力、仕切り知恵、仕切りの道どうでもこう

でも踏まさにやならん」ともある。仕切りの道を通ることで、我々が成人する。諸井慶一郎先生からお聞かせいただくに、例えばおさづけの理、3日本気で頑張つて、ダメだったら仕切り直して、また真実を込めて努めていく。3年頑張ろうと思つたらしんどいけど、まずは3日頑張ってみると。仕切り知恵とは、仕切つて、何とか知恵を働かせる。この期間はどうかやたらこの教会で動きが出てくるのか。どうかやたらこの人の気持ちや神様に向いてもらえるのかと、頭を働かすのだと。上田嘉太郎先生にもお聞きしたら、「やはり知恵働かせるっていうことやな。根性も力も大切だけれども、それだけじゃあかんっていうことかな？」とヒントを頂いた。

年祭活動の目標に向かって動く上で大切なのは、自分がしんどいと思う時、そこを逃げずに頑張る事。成人するには自分にできてないことをすることと継続すること。3年間やり続けることがポイント。私どもの教会も目標を立てた。「教会に足を運ぼう」「ひのきしんを心がけよう」「にをいがけ・おたすけに動こう」「おつとめやおさづけで人の助かりを願おう」の4項目。それ

仕切り知恵、仕切りの道どうでもこう

ぞれ出来る事は違うので、どれか1つ自分がやるのを決めようと。数字の目標も挙げた。1つは、おぢばに提出する心定めの数字の完遂。2つ目が、3年間で教会に初めて来る人を140人目指す。3つ目、おたすけお祝いカード100通。4つ目、リーフレットを3年間で1万7千枚。その上で教会で3年間、年3回の団参、別席団参とひのきしん団参と子供おぢばがえり。そして教会中と町内のひのきしんを月2回。さらにをいがけと、教会の活動日をひのきしんも含めて月に1回ずつ活動する。そのうち3、4回はお楽しみ行事をしよう。私自身は自分個人の目標を2つ決めている。1つは、チラシを月140枚配る。もう1つは、教会につながっている人に、ラインやメール、電話を使いながら毎月声をかける。教会につながるようぼくの家の人への丹精は、未信者へのをいがけと変わらない役割がある。ずっと声をかけたら、家の人とのやりとりも出てくるし、そこからにいが掛かってくることもある。最近来てない人にちよつと声かけてみるとかを教会のみんなですていく。

うちの教会の信者さんで70になる奥

さんが先月、「私はおたすけを決めました。電車でしんどい人がいたらこちらから声をかけて席を譲る。この間、1回譲ったら、いいですって言われて。でも、本当にしんどそうだったから、もう1回あなた座りなさいって言うって。体は大事にしたほうがいいからあなな座りなさい。明日も仕事あるんでしょって言ったらすごく嬉しそうにありがとうごさいますって言って座ってくれた。」と。また別の方で初代の信仰の方が、「職場の新社員さんで、その子連れて来たい」と言う。その初代の方自身が天理教に出会って、教会でいろんな人の話を聞いているうちに、なるほどと思うことが多いから、天理教の話を知りたいというので言う。4月のボーリングの時にその彼を連れて来て、教会の若い人といろんな話をして、こんな世界があるんだという事で、10月の別席団参に参加を予定している。これも一人で出来る事ではなく教会全体で動くことで、少しずつ出来る。

教祖120年祭の初めての年祭活動で、一人ひとり今出来ることからちよつとハードルを上げようと月次祭で話した。月次祭の後、ある男性ようぼくが、

職場の人でおたすけしたい人がいる、会長さんにおさづけして貰いたいと。入社時からお世話になった先輩で、その人が今年の4月に結婚し、7月に具合が悪くなって病院に行った。すると癌でステージ4、覚悟はしてくださいと言われたと聞いたと。それを聞き、私がおさづけしてもいいんだけど、あなたがおさづけさせてもらったらどうか、3日に1回、出来たら毎日おさづけさせて貰ったらどうかという相談をした。私は教会で毎晩8時半に十二下りのお願いとめをさせてもらう、おぢばに帰っているときはおぢばでさせてもらいますと。わかりました、じゃあそうします、そして教会に行けるときは行きますと言ってくれた。1か月後、電話がかかってきた。会長さん助かつちやいました。おさづけって本当に効くんですね、僕のおさづけでも効くんですね。お腹を開いたら腫瘍がものすごく小さくなって、お医者さんがこんな急激に小さくなるのは見たこともない、転移もなかったのと。その後、その夫婦連れて教会にお礼づとめに来てくれた。その信者さん、本当に熱心におたすけにかかられた。おさづけを毎日と言っていたが、最終

的には朝晩取り次いでいた。出勤してタイムカードを押す前におさづけを取り次ぎ、帰る前にタイムカードを押してからおさづけを取り次いで、会社が終わってから教会にお願いとめに来て家に帰る。その人の家から会社まで1時間、会社から教会まで1時間かかる。その人は神奈川の山手の方に住んでいるので、もうバスも止まっている。1ヶ月バイクで横浜駅まで通っていた。その人は職場で自分は天理教だと言ってなかった。その中で天理の話をして、おさづけを取り次いだプレッシャーは相当なものだったはず。神様はやはりそういう真実を受け取って働いてくださるから、それは効くよと話した。

この年祭活動の3年というのは、普段以上に神様が働いて下さる時期だということ。年祭の度に私は感じている。やはりここは動かないともったいない。皆さん方それぞれ目標をもう一度確認をしていたら、自分出来るおたすけ。自分がすべきおたすけは何なのかということ。ここからまた仕切り直して2年半お互いに努めさせていただけたらと思う。

(以上要約) 佐藤 真孝

4年ぶりの英語講習会

海外部



Practicing English conversation

行事開催予定を発表したのは昨年。その時はコロナ禍にあつて行事が出来ても1日だけであろうという判断から今年は8月8日、1日のみの開催となりました。1日で英語を修得するのは勿論難しく、ならば参加した人達が少しでも英語を話すことで経験を積んで楽しんで貰おう、外国人と英会話をする事で自信を持って帰ってもらおうという目的から、今年は「倉敷の街に行き外国人を探して英語で話をし



at the Natural History Museum

てみよう」という計画を立てました。今年オーストラリアからゲストとして来てくれたMAX(マックス)足立正直さん(河原町部属)と大学生達が倉敷の英語の地図を片手に観光名所を回る為の英語の謎解きクイズを準備し、外国人に話しかける英会話フレーズを何度も練習した後、倉敷の町を訪れました。倉敷の町に到着しスタッフの手作りおにぎりを頂いて後、4つのグループに分かれそれぞれ英語のなぞ解きをしながらミッションをクリアし、外国からの観光客を探しては練習をした英会話に挑戦してみました。最後はソフトクリームを英語で注文して食べる

という倉敷の町の人も巻き込んでの充実した英語講習会となりました。小学生から大人までという参加対象で親子参加もあり、海外部員4人を含む19人が参加。参加者が1日英語に触れ、英語を楽しみ、話す事に自信を持ってくれた講習会になりました。

参加者の声

(海外部長 上原 志 郎)

英語講習会は以前にも行ったことがありましたが、その時はまだ小三であり英語を話すということができませんでした。なので、少し不安もあり、行く前はドキドキしていましたが、実際に行って外国人の人に話しかけてみると、とても陽気で優しい人が多かったのでびっくりしました。そして前回の自分と比べると外国人に話し掛けてしゃべることができたと自信にもつながりました。さらには、倉敷ということもあって、観光しながら楽しく学ぶことができたので、とても良かったと思います。

ゲストのマックスが最後に日本語をしゃべっていたので、びっくりしていました。最初は冗談かと思いつつ聞いていましたが、中盤からまんまとだまされ



Where are you from?

お昼に食べたお弁当もおいしかったです、観光しながら学ぶこともできました、自信にもつながったので、とても楽しかったです。英語講習会での経験を今後にも生かしていきたいです。

(陶山・上原 遼太)

英語に親んでももらいたいと、小3の息子と一緒に初めて参加しました。4年ぶりの開催ということで、倉敷の街に行つて外国人観光客の方に英語で話しかけるといふミッションがありました。

もちろん初心者親子ですので不安も



Can I ask your name?

に、息子も嬉しそうに「サンキュー」「ハブアナイステイ」と手を振って別れました。ハードルが高いと思ってなかなか参加出来ないと思っていたイングリッシュキャンプでしたが、全くそんな事はなく、来年も息子と参加したいと思っています。新しい参加者の方が増えて下さると嬉しいです。

ありましたが、スタッフの方々のあたたかいオープンな雰囲気の中、少しずつ緊張もとけていきました。

出発前には、大教会で基本的な会話を英語でレクチャーしてもらい、必死にカタカナでメモして(笑)、息子と繰り返し練習しました。

久しぶりにマジメに勉強した甲斐もあって、現地に着いてから、恥ずかしそうにしていた息子に「失敗しても大丈夫!」と声をかけて、勇気を出して外国人に話しかけてみました。

一生懸命な息子の姿を見てとても嬉しく、こちらも元気をもらい、気がついたら、班のみんな笑顔になっていた。

優しくささく外国の方々の反応

サマーキャンプ実施

少年会

少年会笠岡団(森本忠善団長)は、少年会員10人、育成会員8人、計18人の参加のもと、少年会本部施設「さんさいの里」を会場に8月22日から24日の2泊3日でサマーキャンプを4年ぶりに開催しました。

このキャンプは、火・水・風の親神様の御守護を肌感じるとともに、たすけあいを実践し、そこに喜びと感謝を体得する、少年会員の育成を目的に実施される行事です。

大教会での出発式では、3日間の無



代表でファイア一点

事を親神様、教祖にお願いし、大教会長様からは「たすけあいを実践し、3日間楽しんでください」と挨拶を頂き、おちばへ向け出発。
正午すぎにおちばに到着、本部神殿で参拝の後、詰所にて昼食。14時ごろさんさいの里に到着。

入所式・オリエンテーション。その後、夕食の準備。

初日の夕食はキャンプ定番のカレーライス。わかぎをリーダーに各班で飯盒炊さん。具材を切る人、お米を研ぐ人、炊く人皆で協力して作ったカレー



慎重に薪割り

の味は格別でした。続いて夕べの集い。日も暮れていよいよキャンプファイアー。スタッフの方々のゲームに歌声、他団体のスタッフを観て楽しませていただき、笠岡団は、会場にいる全員に参加してもらい「じゃんけん列車」で場を盛り上げました。

各テントに帰りおやつタイム。その後寝袋に入り就寝。

2日目は、朝の集いの後、朝食作り。前日の経験を活かし手際良く、お味噌汁も作れました。



班ごとに飯盒炊さん

朝食後は、皆楽しみにしていた野外ゲーム。さんさいの里スタッフの指導のもと、フリスビーゴルフ、トランポリン、ボルダリングと身体をいっぱい動かして笑顔が溢れた時間となりました。

昼食は、手作りピザとフルーツポンチ。ピザは、生地を一から作ることにチャレンジし、出来上がったピザは、あまりの美味しさにペロリと完食。

昼食後は、さんさいの里での記念に焼き板作り。

それぞれ想いが込められたものを作り上げました。



皆とフリスビーゴルフ

夕べの集い後には、大教会長様にもお越しいただき、BBQを皆で美味しくいただきました。

3日目、朝の集い、朝食、撤収。

楽しかった3日間もあっという間に過ぎ退所式。お世話になったさんさいの里、スタッフの皆さんにお礼を言い、一路大教会へ。

15時ごろ大教会到着、閉会式、解散。

2泊3日、親神様の御守護のもと、大きな事故、怪我なく無事に終わらせていただくことができました。ありがとうございました。

(少年会委員 中村剛史)



後片付けもしっかりと



美味しくできました



生地作り頑張りました



ピザ職人

八月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます

親神天理王命の御前に 会長上原明勇 慎んで申し上げます

親神様には『月日にハ、せかいどう、ハみなわが子 たすけたいとの心ばかりで』との親心のまにまに 天然自然のお働きをもって絶え間なく御守護下さいますことは誠に有難く勿体ない極みでございます 私共は日々お見せ頂く姿は全てたすけを急ぎ込む親心の現れと朝夕に御礼申し上げますと共に 親心にお応えするべくたすけ一条の御用の上に努め励ませて頂いております

その中にも今日の吉日は 理のお許しを戴いた八月の月次祭を執り行う日柄でございますので 只今からおつとめ奉仕人一同明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりをつとめさせて頂きます 御前には残暑厳しき中も厭わず寄り集いました道の子供たちが 相共にお歌を唱和し 日頃の御高恩に改めて御礼申し上げる状をご覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて今年四年ぶりに「こどもおぢばがえり」が開催され 笠岡から大勢の子ども達がおぢばがえりをしてくれました また英語講習会 学生生徒修養会高校の部も無事開催されました 誠にありがとうございます 更に明日からは三日間さんさいの里でのサマーキャンプが開催されます これも何卒事故怪我等なく 皆喜び心一杯にお連れ通り下さいますようお願い申し上げます

更にまた本日は本部布教部長松村登美和先生にお越し頂き 布教推進講習会を開催致します この時旬にお聞かせ頂くお話をしっかりと胸に治め 九月のにをいがけ強調の月そしてその先の教祖百四十年祭に向かって これまで以上ににをいがけおたすけに努め励ませて頂く所存でございます

何卒親神様には 世界いちれつをたすけたいとの親心に添うべくたすけ一条に邁進する皆の誠実の心をお受取り下さいまして 万たすけの上に更なる自由の御守護を賜り お望み下さる陽気ぐらしの世の状に一日も早く立て替わりますようお願い申し上げます



大教会だより

◎本部月次祭 登殿参列

立教186年8月26日登殿

福	福	福	西	錦	島	輝	島	福
輝	南	東	村	備	中	美	根	山
田	掛	藤	藤	室	内	谷	門	田
中	谷	井	本	海	内	脇	元	隆
亜	善	保	晴	悦	史	秀	元	隆
輝	成	人	司	子	郎	自	教	之



立教百八十六年 八月月次祭 祭典役割表

胡弓	三味線	琴	小鼓	すりがね	太鼓	拍子木	ちゃんぽん	笛	てをどり	おつとめ	地方	役割	講話	祭主						
												区分			扨者					
												坐り勤			大教会長様					
佐藤香苗	今川佐智子	上原順子	三代温生	三島涉	中村剛	吉岡壽	佐藤道孝	杉原善朗	田中ますみ	前奥様	大教会奥様	上原繁道	前会長様	大教会長様	中村義太郎	森本忠善	門脇元教	布教推進講習会	横山逸郎	吉岡誠一郎
三島照美	高木孝子	内海安子	浅野明教	三代温生	内海史郎	杉原善朗	渡邊隆夫	吉岡誠一郎	田中つかさ	門脇加津	武内正美	山野弘実	今川昌彦	上原志郎	岡崎治喜	田林久嗣	岡崎真一	秋季大祭講話	指図方	賛者
吉岡八恵	岡崎豊子	中村初美	岡田誠	山田敏教	高木昭祥	横山逸郎	赤木素志	佐藤真孝	上原千枝子	室悦子	横山小智榮	虫明立生	上原浩	中島誠治	谷内秀自	中村道徳	田中隆之	世話人・島村廣義先生	門脇元教	浅野明教



教区青年会の企画がきっかけで、教会を活用して夫婦ではじめた「こども食堂」。2021年6月にスタートして、コロナ感染が拡大した去年は年間5回しか開催できなかったが、今年の5月には新規の参加者だけで100名を突破した。こども食堂をやっていないければ、これだけの方に教会へと足を運んでいただき、一緒にお話ししながらごはんを食べる事はなかっただろう。

こども食堂をはじめるにあたって、地域で役をしておられる方々にご挨拶に伺ったところ、「なんで天理教さんでやるの?」とか「ほんとに子どもが集まるの?」とか厳しいお声をいただいた事もあった。あれから2年。いまでは地域の公民館さんに、こども食堂の運営者として講演を依頼され、『先生』とよばれるようになった。「蒔いたる種はみな生える」。この年祭活動の句に蒔けるだけの種を蒔こうと思

詰所からのお願い

詰所での宿泊・喫食について

- ・詰所で宿泊・喫食される場合は、「教会名・代表者名・泊数・食数」を、**2日前までには、必ず詰所**へご連絡ください。
- ・**食事をしない(宿泊のみの)場合**でも、2日前には申し込みをして下さるようお願い致します。

部内教会・信者に徹底願います。

(よ)